

学校における効果的な換気のポイント

- ◆ 換気については、これまでも基本的な感染対策の一つとして位置付けており、「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル」や「学校環境衛生基準」にも、換気の方法やその際の留意事項等が記載されています。
- ◆ また、7月14日の新型コロナウイルス感染症対策分科会の換気に関する提言も参考となります。
- ◆ エアコン使用により換気が不十分となることが懸念される暑い季節において、換気的重要性を再認識するとともに、エアロゾル感染に対応した屋内での効果的な換気を行うことも重要です。地域や学校の実情に応じた換気に取り組んでください。

換気は、気候上可能な限り常時、困難な場合はこまめに（30分に1回以上、数分間程度、窓を全開する）、2方向の窓を同時に開けて行う。

①常時換気の方法

気候上可能な限り、常時換気を。廊下側と窓側を対角に開けることにより、効率的に換気することが可能。なお、窓を開ける幅は10cmから20cm程度を目安に、上の小窓や廊下側の欄間を全開にするなどの工夫も。また、廊下の窓も開けることも必要。

②常時換気が困難な場合

常時換気が難しい場合は、こまめに（30分に1回以上）数分間程度、窓を全開に。

③窓のない部屋

常時入り口を開けておいたり、換気扇を用いたりするなどして十分に換気を。
また、使用時は、人の密度が高くないように配慮を。

④体育館のような広く天井の高い部屋

広く天井の高い部屋であっても換気を。体育館での授業や部活動等においては、窓等を全開放しての使用を基本。気流等の影響を受けやすい競技を実施する場合は必ず時間を決め、定期的に換気を実施。

学校における効果的な換気のポイント

⑤エアコンを使用している部屋

換気機能のないエアコンは室内の空気を循環しているだけで、室内の空気と外気の入れ替えを行っていないことから、そうしたエアコンを使用する時には、窓開け換気を。

⑥換気設備の活用と留意点

学校に換気扇等の換気設備がある場合には、常時運転を。換気設備の換気能力を確認することも必要。学校の換気設備だけでは人数に必要な換気能力には足りず、窓開け等による自然換気（①又は②を参照）と併用が必要な場合が多いことに留意。換気扇のファン等の清掃も実施。

⑦必要な換気量の確保

機械換気による常時換気を行う場合、定期的な機械換気装置の確認やフィルタ清掃等を実施。

必要な換気量の確保のため、二酸化炭素濃度測定器を保有している場合は、二酸化炭素濃度を計測し、概ね1,000ppm以下に維持。

必要な換気量を確保できない場合、扇風機、サーキュレータ等を活用。

⑧感染を防ぐための空気の流れ

エアロゾルの浮遊リスクが低い空間（人が少ないところ等）から浮遊リスクの高い空間（人が多いところ等）に向けた気流をつくり、エアロゾルを効果的に減少。

パーティション等は、気流を阻害しないよう配置するとともに、施設の構造等により局所的に生じる換気不足（空気のよどみ）を解消。

⑨部室、更衣室、廊下、移動用車両、学生寮など一時に多数の生徒が集まる場所

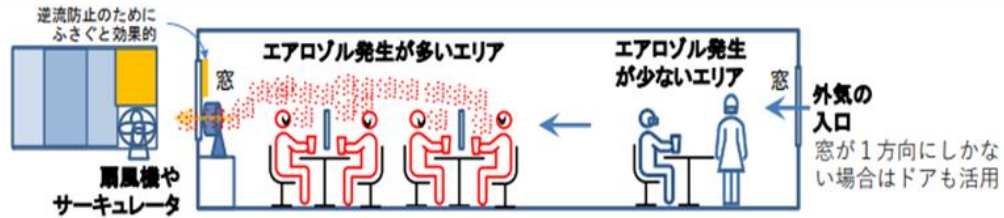
教室の換気に加え、部室、更衣室、中廊下、移動用の車両、学生寮など一時に多数の生徒が集まる場所において、換気の改善を実施。

また、食堂では機械換気の有無にかかわらず、二方向の窓開け等による換気を徹底。

学校における効果的な換気のポイント

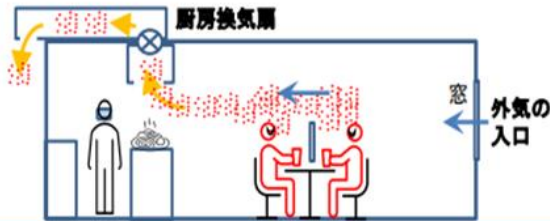
窓が2方向にある場合

エアロゾル発生が多いエリアから扇風機、サーキュレータで排気し、反対側から外気を取入れる。



換気扇がある場合

換気扇で排気し、反対側から外気を取入れる。



換気扇・窓がない場合

空気清浄機でエアロゾルを捕集。



●パーティションの配置や形状により、換気が感染対策に有効に働かない場合があります。

